

Acronis



Acronis Backup Advanced for vCloud Update 8

クイックスタートガイド

著作権情報

Copyright © Acronis International GmbH, 2003-2020. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis Secure Zone」は、Acronis International GmbH の登録商標です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis Startup Recovery Manager」、「Acronis Instant Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis International GmbH の商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国およびその他の管轄区域における商標および登録商標です。

Windows および MS-DOS は Microsoft Corporation の登録商標です。

ユーザズ ガイドに掲載されている商標や著作権は、すべてそれぞれ各社に所有権があります。

著作権者の明示的許可なく本書を修正したものを配布することは禁じられています。

著作権者の事前の許可がない限り、商用目的で書籍の体裁をとる作品または派生的作品を販売させることは禁じられています。

本書は「現状のまま」使用されることを前提としており、商品性の黙示の保証および特定の適合性または非違反性の保証など、すべての明示的もしくは黙示的条件、表示および保証を一切行いません。ただし、この免責条項が法的に無効とされる場合はこの限りではありません。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。ソフトウェアまたはサービスで使用されているサードパーティのコードおよび関連ライセンス条項の最新の一覧については <https://kb.acronis.com/content/7696>（英語）をご参照ください。

Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、以下の番号の 1 つ以上の米国特許によって保護されています。7,047,380 号、7,246,211 号、7,275,139 号、7,281,104 号、7,318,135 号、7,353,355 号、7,366,859 号、7,383,327 号、7,475,282 号、7,603,533 号、7,636,824 号、7,650,473 号、7,721,138 号、7,779,221 号、7,831,789 号、7,836,053 号、7,886,120 号、7,895,403 号、7,934,064 号、7,937,612 号、7,941,510 号、7,949,635 号、7,953,948 号、7,979,690 号、8,005,797 号、8,051,044 号、8,069,320 号、8,073,815 号、8,074,035 号、8,074,276 号、8,145,607 号、8,180,984 号、8,225,133 号、8,261,035 号、8,296,264 号、8,312,259 号、8,347,137 号、8,484,427 号、8,645,748 号、8,732,121 号、8,850,060 号、8,856,927 号、8,996,830 号、9,213,697 号、9,400,886 号、9,424,678 号、9,436,558 号、9,471,441 号、9,501,234 号、および出願中特許。

目次

1 Acronis Backup Advanced for vCloud について	5
2 ソフトウェア要件.....	5
3 コンポーネント.....	7
4 開始するために必要なこと	8
5 段階的な手順の説明	9
5.1 RabbitMQ サーバーのインストールおよび構成.....	9
5.2 Acronis Backup Advanced for vCloud のインストール.....	12
5.2.1 管理サーバーのインストール	12
5.2.2 SQL サーバー構成スクリプトの実行	13
5.2.3 vCenter Server との管理サーバーの統合	14
5.2.4 VMware エージェントの配置	16
5.2.5 エージェント for vCloud のインストール.....	18
5.2.6 エージェント for vCloud の構成.....	18
5.3 組織に対するバックアップの有効化.....	22
5.4 仮想コンピュータのバックアップ	24
5.5 バックアップ計画の適用	25
5.6 バックアップ バージョンによる仮想コンピュータの上書き	26
5.7 仮想コンピュータのリカバリ	28
5.8 仮想コンピュータのバックアップからのファイルのリカバリ	30

このドキュメントでは、すばやく Acronis Backup Advanced for vCloud をインストールし使用し始める方法について説明します。

製品の用法について概説し、即座に「フィールド テスト」を行えるようにします。Acronis Backup Advanced for vCloud の管理の詳細については管理者ガイドを参照してください。これは、製品の Web インターフェイスで **【ヘルプ】** リンクをクリックすると開くことができます。

1 Acronis Backup Advanced for vCloud について

Acronis Backup Advanced for vCloud は、VMware vCloud Director によって管理される仮想コンピュータのバックアップおよびリカバリ用ソリューションです。

Acronis Backup Advanced for vCloud は、システム管理者レベルおよび組織ユーザー レベルでのバックアップ サービスをもたらします。このバックアップ サービスは Web インターフェイスから使用できます。ユーザーは、vCloud Director の資格情報を使用することによって、サービスにログインします。

2 ソフトウェア要件

サポートされる VMware vCloud Director バージョン

- VMware vCloud Director 1.5
- VMware vCloud Director 5.0
- VMware vCloud Director 5.1
- VMware vCloud Director 5.5、5.6
- VMware vCloud Director 8.0、8.1、8.2
- VMware vCloud Director 9.0、9.5、9.7
- VMware vCloud Director 10.0

サポートされるゲストオペレーティングシステム

Acronis Backup Advanced for vCloud は、Windows 10、Windows Server 2019、主要な Linux ディストリビューションを含めた、幅広いゲストオペレーティングシステムをサポートしています。

推奨 Web ブラウザ

Web インターフェイスは、次の Web ブラウザに対応しています。

- Google Chrome 29 以降
- Mozilla Firefox 23 以降
- Opera 16 以降
- Windows Internet Explorer 10 以降

クラウドの配置において [管理ポータル] は、Internet Explorer 11 以降をサポートします。

- Microsoft Edge 25 以降
- macOS および iOS オペレーティングシステムで稼働する Safari 8 以降

他の Web ブラウザ（他のオペレーティングシステムで稼働する Safari ブラウザなど）では、ユーザーインターフェイスが正しく表示されないか、一部の機能が使用できない場合があります。

ブラウザで JavaScript が有効になっていることを確認してください。

グラフィカルユーザーインターフェイスを表示するための画面解像度は、1024 x 768 以上にする必要があります。

3 コンポーネント

Acronis Backup Advanced for vCloud は、別々のコンピュータにインストールする必要のある複数のコンポーネントから構成されます。

- **エージェント for VMware** は、vCloud リソース グループでの仮想アプライアンスとして実行します。

エージェント コンピュータのデフォルト設定は、1 GB のメモリ、6 GB のディスク スペース、および 2 つの CPU です。

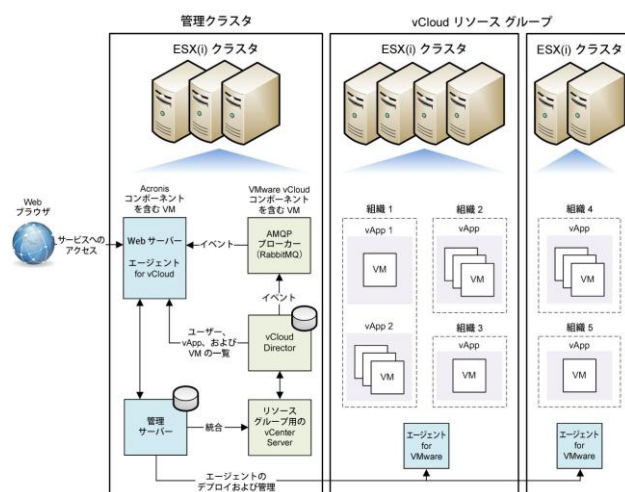
- **管理サーバー**は、管理クラスタ内で、Windows を実行している仮想コンピュータにインストールする必要があります。

コンピュータの最小要件は、3 GB のメモリ、30 GB のディスク スペース、および 2 つの CPU です。

- **エージェント for vCloud** は、オープン仮想化フォーマット (OVF)テンプレートから管理クラスタにインポートする必要があります。このエージェントは、Web サーバーとしても機能する Linux 仮想コンピュータ上で実行します。

このエージェント コンピュータのデフォルト設定は、2 GB のメモリ、8 GB のディスク スペース、および 1 つの CPU です。

次の図に、コンポーネントの通常のインストールおよびインタラクションを示します。



4 開始するために必要なこと

次の点を確認します。

- **vCloud Director がインストールおよび構成されていること。**
- **TXT ファイルでライセンス キーが用意されていること。**

複数のライセンス キーがある場合、テキストは、キーごとに 1 行の形式にします。

- **Acronis Backup Advanced for vCloud インストール パッケージが用意されていること。**

パッケージは次の要素から構成されます。

- Acronis Backup Advanced プログラムの設定。
 - エージェント for vCloud OVF テンプレート。
 - スクリプト `enable_remote_sql_access.js`。
- **管理サーバーをインストールする仮想コンピュータをオンにしていること。**
 - コンピュータで Windows オペレーティング システムを実行している必要があります (Start、Home、および RT エディションを除く)。
 - コンピュータは、リソース グループ用の vCenter Server と、リソース グループ ESX(i) クラスタにネットワークでアクセスできる必要があります。
 - **NFS、SMB、FTP、または SFTP のいずれかのネットワーク プロトコルをサポートしているストレージが用意されていること。**

ストレージ容量は、組織のバックアップを格納できるだけ十分な大きさである必要があります。組織ごとに、このストレージに個別の共有フォルダを作成します。

バックアップの格納に NFS 共有を使用する場合、管理サーバーをインストールするコンピュータに、Microsoft Windows Services for NFS をインストールします。NFS サーバーがインストールされたコンピュータで、匿名アカウントとして機能するユーザーアカウントを選択し、続いて、**/etc/exports** ファイルで次のパラメータを指定することによって、エクスポート フォルダを構成します。

```
/opt/backups *(rw, sync, all_squash, anonuid=1000, anongid=1000)
```

この例では、フォルダ名は `/opt/backups` であり、匿名アカウントのユーザー ID とグループ ID は 1000 です。

5 段階的な手順の説明

以下のステップでは、Acronis Backup Advanced for vCloud のインストールおよび基本的な使用方法について案内します。次の方法について説明します。

- 製品および必要なソフトウェアのメイン コンポーネントをインストールし構成する方法。
- 組織に対してバックアップ サービスを有効にする方法。
- 組織の仮想コンピュータをバックアップする方法。
- バックアップ計画を仮想コンピュータに適用する方法。
- 以前のバージョンで仮想コンピュータを上書きする方法。
- 仮想コンピュータをリカバリする方法。

5.1 RabbitMQ サーバーのインストールおよび構成

エージェント for vCloud は、RabbitMQ サーバー AMQP ブローカーを介して vCloud Director からイベントを取得します。

vCloud Director ですでに RabbitMQ サーバーを使用している場合は、エクスチェンジの種類が **[topic] (トピック)** に設定されていることを確認し、「Acronis Backup Advanced for vCloud のインストール」 『12ページ』に進みます。

RabbitMQ サーバーがすでにインストールされているが、vCloud Director で使用されていない場合、次の手順のステップ 5 にスキップしてください。

RabbitMQ サーバーをインストールおよび構成するには

1. RabbitMQ サーバーを <http://www.rabbitmq.com/download.html> からダウンロードします。
2. Windows を実行しているコンピュータに RabbitMQ サーバーをインストールする場合は、<http://www.erlang.org/download.html> から入手できる Erlang Windows バイナリ ファイルをダウンロードして実行します。
3. RabbitMQ のインストール指示に従って、任意の適当なホストに RabbitMQ をインストールします。このホストは、vCloud Director にネットワークでアクセスする必要があります。

4. RabbitMQ サーバーを構成できるように、RabbitMQ 管理プラグインが必要です。

RabbitMQ サーバー ホストのオペレーティング システムに応じて、次のいずれかを行います。

- Linux では、次のコマンドを実行します。

```
rabbitmq-plugins enable rabbitmq_management
service rabbitmq-server stop
service rabbitmq-server start
```

- Windows の場合

- **[スタート] > [すべてのプログラム] > [RabbitMQ Server] (RabbitMQ サーバー) > [RabbitMQ Command Prompt] (RabbitMQ コマンド プロンプト)** に移動します。

コマンド プロンプトに、C:¥Program Files¥RabbitMQ

Server¥rabbitmq_server-3.1.5¥sbin など、RabbitMQ サーバーの実行可能ファイルを含むフォルダが表示されていることを確認します。必要に応じて、**cd** コマンドを使用してフォルダを変更します。

- 次のコマンドを実行します: **rabbitmq-plugins enable rabbitmq_management**
- **[スタート] > [すべてのプログラム] > [RabbitMQ Server] (RabbitMQ サーバー) > [RabbitMQ Service - stop] (RabbitMQ サービス - 停止)** を実行します。
- **[スタート] > [すべてのプログラム] > [RabbitMQ Server] (RabbitMQ サーバー) > [RabbitMQ Service - start] (RabbitMQ サービス - 開始)** を実行します。

5. RabbitMQ サーバー ホストで次のコマンドを実行して、新しいユーザー アカウントを作成します。

```
rabbitmqctl add_user <ユーザー名> <パスワード>
rabbitmqctl set_user_tags <ユーザー名> management
rabbitmqctl set_permissions -p / <ユーザー名> ".*" ".*" ".*"
```

ここで、<ユーザー名> と <パスワード> は作成するユーザー アカウントの名前とパスワードです。

注意 上記のコマンドで与えられる以上の許可を持つ既存の RabbitMQ サーバー ユーザー アカウントを使用できます。

Acronis Backup Advanced for vCloud のエージェント for vCloud はこのアカウントを使用して、vCloud Director からイベント通知を受信します。エージェント for vCloud の構成時に求められるので、アカウントの資格情報を忘れないようにしてください。

6. Web ブラウザを開き、**http://<サーバー名>:15672/** に置かれた RabbitMQ サーバー Web UI に移動します。ここで、<サーバー名> は、RabbitMQ サーバー ホストのアドレスです。
7. ステップ 5 で作成した RabbitMQ サーバー ユーザーの資格情報を入力します。
8. **[Exchanges] (エクスチェンジ)** をクリックします。
9. **[Add a new exchange] (新しいエクスチェンジの追加)** で
 - a. **[Name] (名前)** で、エージェント for vCloud で使用する新しいエクスチェンジの名前を指定します。たとえば、**vcdExchange** と指定します。
 - b. **[Type] (種類)** で **[topic] (トピック)** を選択します。
 - c. 他の設定はすべてデフォルト値のままにします。
 - d. **[Add exchange] (エクスチェンジの追加)** をクリックします。
10. 管理者として vCloud Director にログインします。
11. **[Administration] (管理)** をクリックします。
12. **[System settings] (システム設定)** の下で **[Extensibility] (拡張性)** をクリックします。
13. **[Notifications] (通知)** の下で、**[Enable notifications] (通知の有効化)** チェックボックスをオンにします。
14. **[AMQP Broker Settings] (AMQP ブローカー設定)** で
 - a. **[AMQP Host] (AMQP ホスト)** で、RabbitMQ サーバー ホストの名前または IP アドレスを指定します。
 - b. **[AMQP Port] (AMQP ポート)** に 5672 と入力します。
 - c. **[Exchange] (エクスチェンジ)** で、ステップ 9 で作成した新しいエクスチェンジの名前を指定します。
 - d. **[vHost] (vHost)** に **/** と入力します。
 - e. **[Prefix] (プレフィックス)** に **vcd** と入力します。

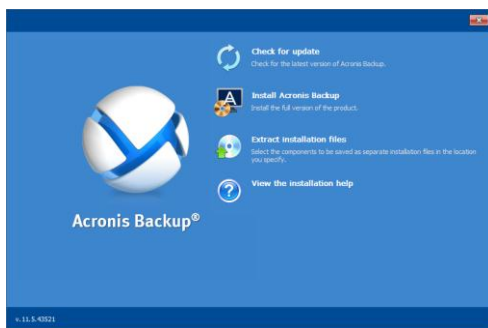
- f. **[User Name] (ユーザー名)** と **[Password] (パスワード)** に、ステップ 5 で作成したユーザー アカウントの資格情報を入力します。

15. **[Apply] (適用)** をクリックします。

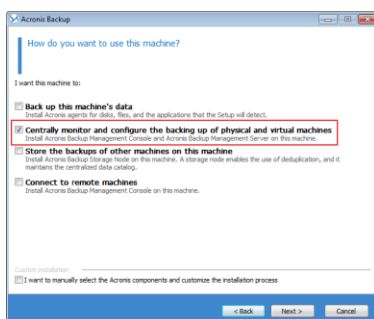
5.2 Acronis Backup Advanced for vCloud のインストール

5.2.1 管理サーバーのインストール

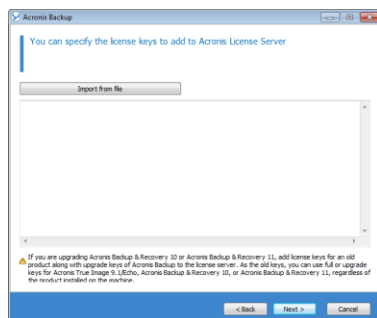
1. 管理サーバーとして機能するコンピュータに、管理者としてログオンします。
2. Acronis Backup Advanced プログラムの設定を開始します。
3. **[Install Acronis Backup] (Acronis Backup のインストール)** をクリックします。



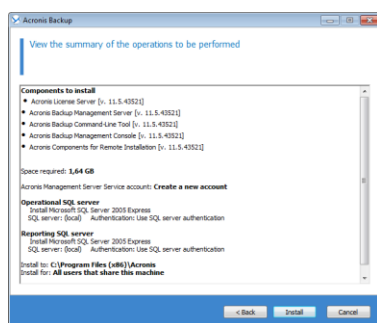
4. ライセンス契約の条件を受け入れます。
5. **[Centrally monitor and configure backing up of physical and virtual machines]** (物理および仮想コンピュータのバックアップの一元的な管理および構成) チェック ボックスをオンにします。



6. Acronis Backup Advanced for vCloud のライセンスを提示します。すべてのライセンス キーを入力するか、テキスト ファイルからインポートします。



7. コンピュータを Acronis カスタマー エクスペリエンス プログラムに加えるかどうかを選択します。
8. **[Install] (インストール)** をクリックしてインストールを進めます。



9. インストールが成功したら、**[Finish] (終了)** をクリックしてウィザード ウィンドウ を閉じます。

5.2.2 SQL サーバー構成スクリプトの実行

1. 製品に付属しているスクリプト `enable_remote_sql_access.js` を管理サーバー コンピュータにコピーします。

詳細。このスクリプトは、エージェント for vCloud にアクセス可能になるように SQL サーバー インスタンスを構成します。エージェント for vCloud が使用する新しい SQL サーバー アカウントを作成し、静的ポートをリッスンするようにインスタンスを構成し、そのポートを通じた接続を許可するように Windows ファイアウォールを構成します。

2. 次の形式でスクリプトを実行します。

```
cscript enable_remote_sql_access.js <新しいユーザー名> <新しいパスワード>[-p <ポート>]
```

ここで、

- <新しいユーザー名> および <新しいパスワード> は新しいアカウントのユーザー名とパスワードです。
- -p <ポート> は、使用するポートを指定するためのオプションのパラメータです。

例:

```
C:\>cscript enable_remote_sql_access.js User 123
```

```
C:\Users\Administrator>cscript enable_remote_sql_access.js User 123
Microsoft (R) Windows Script Host Version 5.8
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

Processing instance 'ACRONIS'
Adding SQL authentication mode...
Enabling TCP protocol...
Picking free port...
Checking port 1433...
Port 1433 is picked
Setting port 1433 for IPAll Tcp protocol
Opening firewall port 1433
Restarting SQL services...
Stopping the service 'MSSQL$ACRONIS'
Starting the service 'MSSQL$ACRONIS'
Waiting for 4 seconds for SQL Server to come up
Adding SQL user 'User'...
```

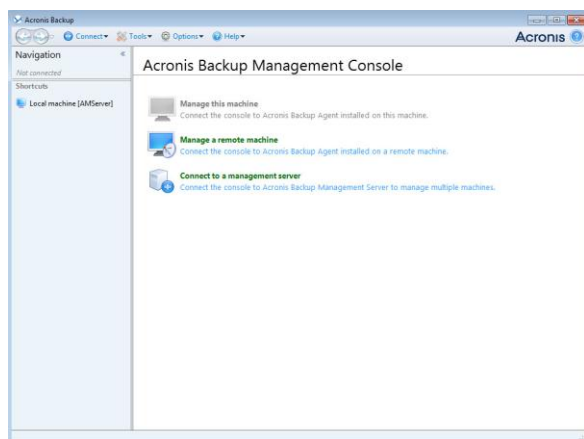
ポートを指定しない場合、自動的に選択されます。スクリプトによって選択されたポート番号を調べます。

```
Port 1433 is picked
```

重要。 資格情報およびポート番号を忘れないようにしてください。これらは、エージェント for vCloud の構成時に求められます。

5.2.3 vCenter Server との管理サーバーの統合

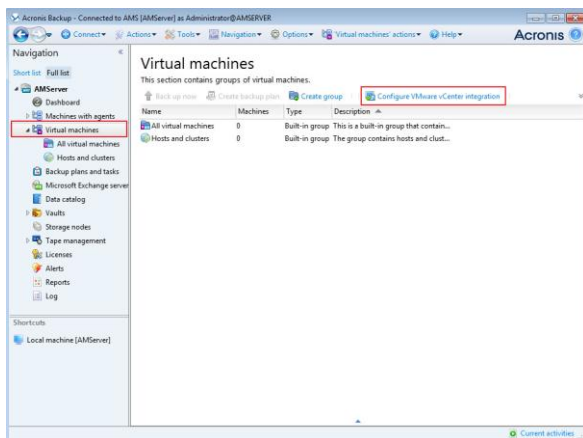
1. 管理サーバーをインストールしたマシンで、デスクトップの **[Acronis Backup]** をクリックします。
2. **[管理サーバーへの接続]** をクリックします。



3. 現在のマシンのホスト名または IP アドレスと、管理サーバーのインストールに使用した管理者の資格情報を指定します。

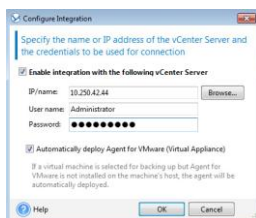


4. ナビゲーションツリーで **[仮想マシン]** をクリックし、**[VMware vCenter 統合を設定する]** をクリックします。



5. **[次の vCenter Server との統合を有効化する]** チェックボックスをオンにします。
6. リソースグループの vCenter Server の IP アドレスまたは名前を指定します。
vCenter Server の管理者の資格情報を入力します。

詳細: 管理サーバーでは、このアカウントを使用してエージェントの配置が行われます。エージェントでは、このアカウントを使用して vCenter Server への接続が行われます。そのため、仮想マシンの作成、バックアップ、復元を行うための権限がこのアカウントに付与されている必要があります。



7. VMware vSphere 6.5 を使用している場合:

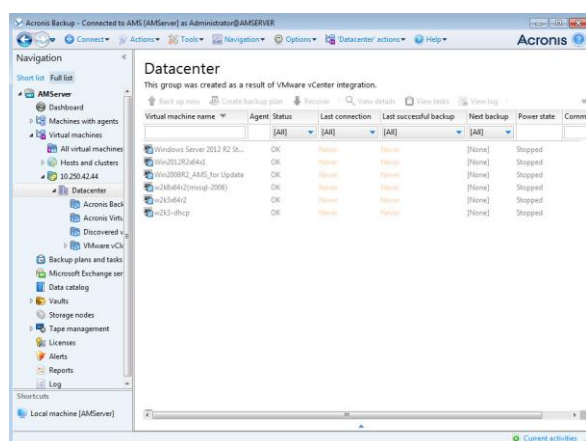
- **[VMware エージェント (仮想アプライアンス)を自動的に配置]** チェックボックスをオフにします。管理者ガイドの「VMware エージェントのインポート」セクションの手順に従って、OVF テンプレートからエージェントを手動でインポートする必要があります。

VMware vSphere の 6.5 より前のバージョンを使用している場合:

- ネットワーク内に DHCP サーバーがある場合、**[自動的に配置]** のチェックボックスはオンのままで構いません。バックアップの開始前に、管理サーバーによって、バックアップする仮想マシンがあるもののエージェントがまだ配置されていない各クラスターに VMware エージェントが自動的に配置されます。
- 静的 IP アドレスを使用するネットワークの場合、エージェントを手動で配置したい場合、または自動配置が失敗した場合は、**[自動的に配置]** のチェックボックスをオフにします。「VMware エージェントの配置 『16ページ 』」で説明されているいくつかの追加手順を行う必要があります。

8. **[OK]** をクリックして変更を確認します。

ナビゲーションツリーの [仮想マシン] セクションに、vCenter Server で管理されている仮想マシンが表示されます。エージェント for VMware はまだ配置されていないので、仮想コンピュータは灰色で表示されています。



5.2.4 VMware エージェントの配置

VMware vSphere 6.5を使用している場合

管理者ガイドの「VMware エージェントのインポート」セクションを参照します。

VMware vSphereの6.5より前のバージョンを使用している場合

管理サーバーを vCenter Server と統合 『14ページ 』するとき自動配置を有効にした場合は、VMware エージェント (仮想アプライアンス)は必要に応じて自動的に配置されます。

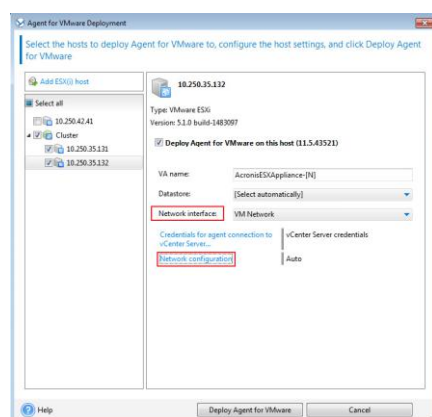
自動配置を無効にした場合は、バックアップする仮想マシンのある各 ESX(i) クラスタにエージェントを配置する必要があります。

VMware エージェントの配置手順

1. 「管理コンソールの使用」の手順に従って、コンソールから管理サーバーに接続します。
2. ナビゲーションツリーの **[仮想マシン]** を展開し、リソースグループの vCenter Server の IP アドレスまたは名前を右クリックします。
3. **[VMware エージェントを配置する]** をクリックします。
4. バックアップする仮想マシンが含まれるクラスターごとに、次の操作を行います。
 - a. エージェントを配置するホストを選択します。
 - b. **[ネットワークインターフェイス]** で、管理サーバー、リソースグループの vCenter Server、クラスターの仮想マシン、バックアップストレージにアクセスするためのネットワークインターフェイスを選択します。
 - c. **[ネットワークの構成]** のリンクが有効になり、エージェントで DHCP サーバーから提供される動的 IP アドレスを使用するか、静的 IP アドレスを使用するかを選択できます。動的 IP アドレスを使用するデフォルトの設定をそのまま使う場合は、この手順をスキップします。

エージェントで静的 IP アドレスを使用する手順は、次の通りです。

- **[ネットワークの構成]** をクリックします。
- **[使用するネットワーク設定]** を選択します。
- エージェントで使用するネットワーク設定を正しく指定し、**[OK]** をクリックします。



ヒント: ネットワーク設定は、エージェントの配置後に変更できます。その場合、VMware vSphere 一覧収集で、仮想アプライアンスを選択し、仮想アプライアンスのコンソールにアクセ

スします。[エージェントオプション] で、「eth0」などのネットワークインターフェイスの横にある [変更] のリンクをクリックします。

5. [VMware エージェントを配置する] をクリックします。

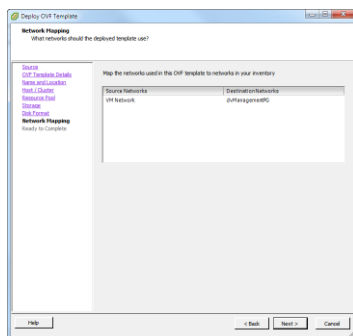
管理サーバーによる VMware エージェントの配置が始まります。進捗がウィンドウ下部に表示されます。

エージェントの配置が完了すると、管理サーバーの [エージェントがインストールされているマシン] ビューに、エージェントが配置されたマシンが表示されます。

5.2.5 エージェント for vCloud のインストール

エージェント for vCloud は、OVF テンプレートとして提供されます。

エージェントをインストールするには、OVF テンプレートを管理クラスタにデプロイします。OVF テンプレートのネットワークを、管理クラスタ仮想コンピュータと RabbitMQ サーバー ホストにアクセスできるネットワークにマップします。



OVF テンプレートのデプロイに関する一般情報については、次の VMware ナレッジ ベースの記事を参照してください。

http://pubs.vmware.com/vsphere-50/index.jsp?topic=%2Fcom.vmware.vsphere.vadmin.doc_50%2FGUID-6C847F77-8CB2-4187-BD7F-E7D3D5BD897B.html。

5.2.6 エージェント for vCloud の構成

ログイン

エージェント for vCloud を含むコンピュータにルート ユーザーとしてログインします。デフォルトの資格情報は次のとおりです。

- ユーザー名:root
- パスワード:Default0 (大文字と小文字を区別)

タイム ゾーンの構成

タイム ゾーンを vCloud Director コンピュータのタイム ゾーンに設定します。これにより、エージェント for vCloud は、ユーザーのタイム ゾーンと vCloud Director のタイム ゾーン間で時刻を変換できます。

1. vCloud Director コンピュータのタイム ゾーンを調べます。不確かな場合は、コンピュータにログオンし、**date** コマンドを実行します。出力には、タイム ゾーンの短縮形が記されます。例:

```
Mon Aug 26 23:00:00 EST 2013
```

EST は Eastern Standard Time (東部標準時)を表します。このタイム ゾーンには、米国およびカナダの一部と、南米のいくつかの国が含まれます。その他の短縮形については、<http://www.timeanddate.com/library/abbreviations/timezones/> を参照してください。

2. エージェント for vCloud を含むコンピュータの **/usr/share/zoneinfo** ディレクトリで、地域およびタイム ゾーンに対応するファイルを探します。

たとえば、米国の東部標準時の場合、タイム ゾーン ファイルは次のようになります。

/usr/share/zoneinfo/US/Eastern

3. 古いタイム ゾーン設定を削除します。

```
rm -f /etc/localtime
```

4. 新しいタイム ゾーン設定を指定します。

```
ln -s <タイム_ゾーン_ファイル> /etc/localtime
```

例:

```
ln -s /usr/share/zoneinfo/US/Eastern /etc/localtime
```

接続パラメータの構成

1. **/opt/acronis/vcd-agent/bin** フォルダに移動し、**configure.sh** コマンドを実行します。

すべての使用可能な構成シナリオが表示されます。

```
[root@localhost ~]# /opt/acronis/vcd-agent/configure/configure.sh
-----
Acronis Agent for vCloud configuration:
'1' Configure Agent for vCloud as a new installation
'2' Start migration from existing Acronis Backup Advanced for vCloud

'0' Exit
Action: 1

-----
Acronis Agent for vCloud configuration:
'1' Initial agent configuration
'2' Show agent configuration
'3' Change agent configuration
'4' Show network settings
'5' Change network settings
'0' Back
Action [2]: █
```

2. **[Initial agent configuration]（初期エージェント構成）** シナリオを選択します。
3. 次の vCloud Director 接続パラメータを指定します。
 - vCloud Director のホスト名または IP アドレス
 - vCloud Director システム管理者の資格情報
4. RabbitMQ サーバーを構成するときに作成した RabbitMQ サーバー ユーザーの資格情報を入力します。
5. 次の管理サーバー接続パラメータを指定します。
 - 管理サーバー コンピュータのホスト名または IP アドレス
 - 管理サーバーをインストールしたときの管理者資格情報
6. 管理サーバー データベースを格納する SQL サーバー インスタンスの接続パラメータを指定します。
 - **ホスト名/IP アドレス:**管理サーバーのホスト名または IP アドレス
 - **ポート [1433]:**管理サーバーで構成スクリプトを実行するときに定義されたポート
 - **ユーザー名、パスワード:**管理サーバーで構成スクリプトを実行するときに入力した資格情報
7. ユーザーが仮想コンピュータのバックアップからファイルをリカバリ 『30ページ』できるように次の手順を行います。
 - **[Do you want to enable users to recover individual files…]（ユーザーが個々のファイルをリカバリできるようにしますか…）** プロンプトで、**y** キーを押します。
 - リカバリされたファイルの一時的なストレージとして使用されるネットワーク フォルダへのパスと、そのフォルダへのアクセス認証を指定します。

管理サーバーのコンピュータ上の共有フォルダを使用することをお勧めします。フォルダは **//Server/Share/Folder** の形式で指定します（フォワード スラッシュに注意）。一時ファイルには、少なくとも 20 GB のスペースをとっておいてください。必要に応じて、管理サーバーのコンピュータに別のディスクを追加し、そのディスク上にフォルダを作成します。コンピュータが、Active Directory ドメインのメンバーである場合、<ドメイン名>\\<ユーザー名>（二重のバックスラッシュに注意）または <ユーザー名>@<ドメイン名> の形式でユーザー名を指定します。

または、NFS サーバー上のエクスポート フォルダを使用できます。たとえば、エージェント for vCloud を含むコンピュータを NFS サーバーとして使用できます。エクスポート フォルダを指定するには、

nfs://Server/ExportPath:/PathInExportFolder の形式を使用します（最後のスラッシュの前のコロンに注意）。エクスポート フォルダを適切に構成する方法の詳細は、管理者ガイドの[NFS ストレージの設定]のセクションを参照してください。

ネットワーク設定

vCloud エージェントをインストールしたマシンは、ネットワークアダプタ **ens192** を 1 つ備えています。このネットワークアダプタにより以下が実行されます。

- Acronis Backup Advanced for vCloud コンポーネントが VMware vCloud コンポーネントと通信する内部ネットワークへの接続。また、内部ネットワーク内の SSH クライアントおよび Web ブラウザからの受信接続の受け入れ。
- 外部ネットワーク内にある Web ブラウザからの受信接続の受け入れ。ポート 80 および 443 を通じたこのアダプタへの外部接続が、ファイアウォール、NAT ルーター、およびネットワークセキュリティシステムの他のコンポーネントで許可されていることを確認してください。

デフォルトでは、アダプタは DHCP サーバーからネットワーク設定を受け取ります。ユーザーは、静的 IP アドレスをこのアダプタに割り当てることができます。たとえば、ポートフォワーディングを簡単にするために、このアダプタに静的 IP アドレスを割り当てられます。

vCloud エージェントのネットワーク設定を変更するには

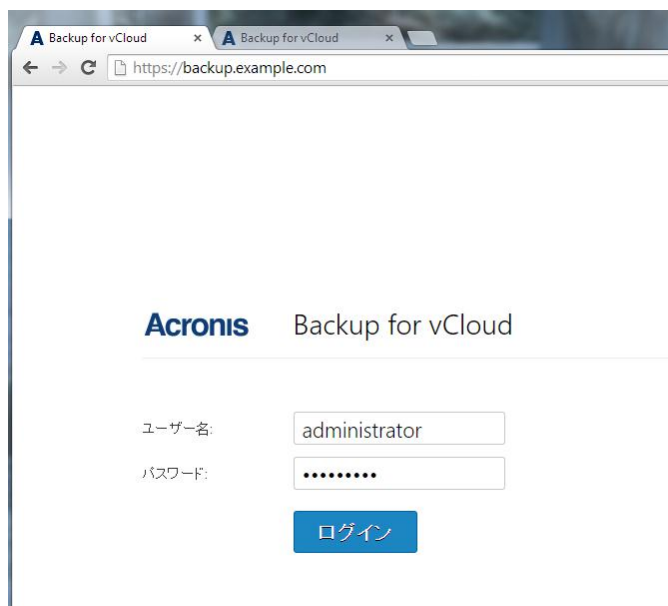
1. **configure.sh** コマンドを実行し、[**ネットワーク設定の変更**] シナリオを選択します。
2. アダプタのネットワーク設定を指定します。

- DHCP サーバーからネットワーク設定を取得するには、**y** キーを押します。
 - 静的 IP アドレスでネットワーク設定を指定するには、**n** キーを押し、続いて次の手順を実行します。
 - a. アダプタの静的 IP アドレスを指定します。例:**10.250.0.10**
 - b. アダプタのサブネットマスクを指定します。例:**255.255.0.0**
 - c. アダプタのデフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。例:**10.250.0.1**
3. 静的 IP アドレスを使用するようにアダプタを構成した場合は、次の情報を指定します。
- a. **[DNS サーバー1]** で DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
 - b. (オプション)**[DNS サーバー2]** でセカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを指定します。

5.3 組織に対するバックアップの有効化

1. バックアップ サービスのログイン ページに移動します。ログイン ページのアドレスは次のようになります。**https://<バックアップ サービス アドレス>/**。
- 内部ネットワークから接続する場合:<バックアップ サービス アドレス> は完全修飾ドメイン名であるか、このネットワークでのエージェント for vCloud ホストの IP アドレスになります。
たとえば、**https://vcloudagent.vcloud.example.com/** や **https://10.200.200.10/** のようになります。
 - 外部ネットワークから接続する場合:<バックアップ サービス アドレス> は、ファイアウォールのパブリック側、ロード バランサ、NAT/リバース プロキシ、およびインフラストラクチャの前面に存在するその他のネットワーク コンポーネントに表示される、バックアップ サービスの URL です。
例:**https://backup.example.com/**
2. vCloud Director システム管理者アカウントのユーザー名およびパスワードを入力します。

3. **[ログイン]** をクリックします。



Acronis Backup for vCloud

ユーザー名: administrator

パスワード:

ログイン

4. **[Organizations] (組織)** タブをクリックします。

vCloud Director に登録された組織の一覧が表示されます。





組織 [設定](#) [ログ](#)

構成

開く

更新

レポートの生成

組織名	バックアップ有効 ↓	保護ステータス
 MyOrganization	●	 未保護
 Shpak	●	 未保護

5. バックアップを有効にする組織を選択します。

6. [構成] をクリックします。

組織のバックアップの構成 ×

MyOrganization

☒ 組織のバックアップの有効化

バックアップ ストレージ システムのバックアップ計画 ユーザー権限

バックアップ ストレージ:

例:
nfs://server/opt/export/backups/org,
\serverackupsorg,
ftp://server/backups/org

ユーザー名:

パスワード:

☒ 割り当て量: GB

これはソフト割り当て量です。これを超過した場合、新しいバックアップは作成できなくなります。アラートだけが、ユーザー自身と組織内のすべてのユーザーに表示されます。

7. [バックアップ ストレージ] タブの [バックアップ ストレージ] で、組織のバックアップを格納するために割り当てられた共有フォルダへのパスを指定します。フォルダへのアクセスに認証が必要な場合、このフォルダの読み込み/書き込み許可を持つユーザーアカウントの資格情報を指定します。

8. 変更を確認します。

5.4 仮想コンピュータのバックアップ

1. 組織を選択します。

組織 設定 ログ

構成 **開く** 更新 レポートの生成

組織名	バックアップ有効 ↓	保護ステータス	割り当て量
MyOrganization	•	未保護	16 GB

2. [開く] をクリックします。

これで、組織管理者のインターフェイスが表示されます。

3. バックアップする 1 つまたは複数の仮想コンピュータを選択します。

コンピュータが所属する vApp か、**[すべての仮想コンピュータ]** 一覧のどちらかから仮想コンピュータを選択できます。

MyOrg [バックアップ ストレージ](#) [バックアップ計画](#) [設定](#) [ログ](#)

名前	vApp 名	最新のバックアップ	保護ステータス	バックアップ計画
VM1	vApp1	2014/09/09 10:03 午前	未保護	
VM2	vApp1	2014/09/09 10:11 午前	未保護	
VM3	vApp1	2014/09/09 10:12 午前	未保護	

4. **[今すぐバックアップ]** をクリックします。

ソフトウェアは、10 もの仮想コンピュータを同時バックアップできます。デフォルトの数は 5 です。

バックアップが開始すると、最高 5 つのコンピュータが **[バックアップ中]** の保護ステータスになります。選択したコンピュータのバックアップの進行状況は、右側の **[コンピュータの詳細情報]** エリアに表示されます。

名前	vApp 名	最新のバックアップ	保護ステータス	バックアップ計画
VM1	vApp1	バックアップ中...	バックアップ中...	
VM2	vApp1	未保護	未保護	
VM3	vApp1	未保護	未保護	
VM4	vApp1	未保護	未保護	

組織のすべてのバックアップが **[バックアップ ストレージ]** タブに表示されます。

コンピュータ名	vApp 名	ストレージ使用状況	バックアップデータ
VM1	vApp1	70 MB	91.9 MB
VM2	vApp1	862 KB	45.1 MB
VM3	vApp1	242.5 KB	9.6 MB

5.5 バックアップ計画の適用

仮想コンピュータにバックアップ計画を適用すると、コンピュータのバックアップの作成および削除を自動化できます。

- [すべての仮想コンピュータ]** 一覧で 1 つまたは複数の仮想コンピュータを選択するか、**[vApp]** 一覧で vApp 全体を選択します。vApp 全体を選択した場合、バックアップ計画は、vApp 内のすべてのコンピュータと、将来表示される新しいコンピュータに適用されます。

- 1 つまたは複数の仮想コンピュータを選択します。

MyOrg バックアップ ストレージ バックアップ計画 設定 ログ

The screenshot shows a web interface for managing backups. On the left, there's a sidebar with 'すべての仮想コン...' and 'vApp' section containing 'empty', 'thin VMs (50)', 'vApp1', and 'vApp2'. The main area has tabs: 'バックアップ計画の適用' (selected), '今すぐバックアップ', 'リカバリ', 'ファイルのリカバリ', 'バックアップ計画の取り消し', and '更新'. Below the tabs is a table with columns: '名前', 'vApp 名', '最新のバックアップ', '保護ステータス', and 'バックアップ計画'. The table lists three VMs: VM1, VM2, and VM3, all associated with 'vApp1'. VM1's row is highlighted with a red border. The '最新のバックアップ' column shows dates and times. The '保護ステータス' column shows '未保護' (Not Protected) for all VMs. On the right, there's a 'VM1' section with '保護ステータス' and '通知'.

名前	vApp 名	最新のバックアップ	保護ステータス	バックアップ計画
VM1	vApp1	2014/09/09 10:03 午前	未保護	
VM2	vApp1	2014/09/09 10:11 午前	未保護	
VM3	vApp1	2014/09/09 10:12 午前	未保護	

3. [バックアップ計画の適用] をクリックします。

4. 適用するバックアップ計画を選択します。

現在、ソフトウェアで最初から用意されているバックアップ計画から選択できます。

The dialog box titled 'バックアップ計画の適用' (Apply Backup Plan) is shown. It has a close button 'X' in the top right. Below the title, there's a 'newVM' label. The 'バックアップ計画:' (Backup Plan) section has a dropdown menu currently showing '日単位' (Daily). Below the dropdown, the schedule is listed: 'スケジュール: 毎日 5:00 AM に実行' (Schedule: Execute daily at 5:00 AM). The retention rule is listed: '保持ルール: 1週間バックアップを保持します' (Retention Rule: Retain backups for 1 week). There's a link 'バックアップ オプション' (Backup Options). At the bottom, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

バックアップ計画には、バックアップ サービスに関する次の指定内容が含まれます。

- **スケジュール:** バックアップを行う時点と頻度
- **保持ルール:** バックアップを格納する期間
- **バックアップ オプション:** 特定のファイルおよびフォルダを除外するかどうか ([除外]), バックアップ操作の結果に関する通知を送信するかどうか ([通知]), バックアップを暗号化するかどうか ([暗号化])

5. [OK] をクリックします。適用されたバックアップ計画の名前は、[バックアップ計画] 列に表示されます。

5.6 バックアップ バージョンによる仮想コンピュータの上書き

このリカバリ手順は、直接 [組織] タブから簡単に実行できます。

1. 組織管理者のインターフェイスで、組織名のタブをクリックします。

2. 上書きするコンピュータを選択し、**[リカバリ]** をクリックします。



3. **[リカバリ ポイント]** で、コンピュータがリカバリされる日時を選択します。デフォルトでは最新のリカバリ ポイントが選択されます。



バックアップしたコンピュータで使用されていた 1 つまたは複数のネットワークが vApp にもはや存在しない場合、仮想コンピュータのネットワーク アダプタを vApp のネットワークにマップするように求められます。

4. [オプション] **[Power on the virtual machine after recovery] (リカバリ後に仮想コンピュータの電源を投入します)** チェック ボックスをオンにします。

5. **[OK]** をクリックします。

リカバリが開始すると、コンピュータは **[リカバリ中]** 保護ステータスになります。リカバリの進行状況は、右側の **[コンピュータの詳細情報]** エリアに表示されます。



リカバリが完了した後、成功したか失敗したかに関する情報が、**[コンピュータの詳細情報]** エリアに表示されます。

5.7 仮想コンピュータのリカバリ

これは一般的なリカバリ手順です。既存の仮想コンピュータを上書きする場合とは異なり、この手順では、削除した仮想コンピュータをリカバリし、バックアップからリカバリすることによって新しい仮想コンピュータを作成し、コンピュータのネットワーク設定を変更できます。

1. 組織管理者のインターフェイスで、**[バックアップ ストレージ]** タブをクリックします。

MyOrg バックアップ ストレージ **バックアップ計画** 設定 ログ

リカバリ

ファイルのリカバリ

削除

更新

<div><div></div></div> コンピュータ名	↑	vApp 名	ストレージ使用状況	バックアップデータ	▼
<div><div></div></div> <div><div></div> profile2</div>		不明	70.1 MB	91.9 MB	
<div><div></div></div> <div><div></div> VM1</div>		vApp1	70.1 MB	91.9 MB	
<div><div></div></div> <div><div></div> VM2</div>		vApp1	862 KB	45.1 MB	
<div><div></div></div> <div><div></div> VM3</div>		vApp1	248.5 KB	9.6 MB	



通知

✓ リカバリが成功しました
2014/09/09 10:29 午前
リカバリ ポイント: 2014/09/09 10:16 午前

バックアップ

2014/09/09 11:02 午前
2014/09/09 10:57 午前
2014/09/09 10:55 午前
2014/09/09 10:16 午前

[その他のバックアップの表示](#)

2. リカバリするコンピュータを選択し、**[リカバリ]** をクリックします。

仮想コンピュータのリカバリ



profile2

リカバリ ポイント: 2014/08/15 2:01 午後

ターゲット vAPP: vApp1_recovered

リカバリ後のコンピュータの
名前: VM1

[追加パラメータの非表示](#)

コンピュータ名:	VM1				
ネットワークアダプタ					
① 仮想コンピュータのネットワークアダプタ設定がバックアップ内で見つかりません。					
NIC#	接続済み	ネットワーク	プライマリ NIC	IP モード	IP アドレス
0	<input checked="" type="checkbox"/>	global net1		DHCP	DHCP サーバーから...
+ ネットワークアダプタの追加					
⚠ リカバリ後のコンピュータの MAC アドレスは、自動的に生成されます。					

☐ リカバリ後に仮想マシンの電源を投入します

OK

キャンセル

3. **[リカバリ ポイント]** で、コンピュータがリカバリされる日時を選択します。デフォルトでは最新のリカバリ ポイントが選択されます。
4. **[ターゲット vApp]** で、コンピュータをリカバリする先の vApp を指定します。デフォルトでは、元の vApp が選択されます。

元の vApp が組織内にもはや存在しない場合、元の vApp を再作成してコンピュータをその vApp にリカバリできます。そのようにするには、**[元の vApp の再作成]** を選択します。vApp は、コンピュータがバックアップされたときに保持していたパラメータで作成されます。

5. **[リカバリ後のコンピュータの名前]** には、リカバリしたコンピュータの vApp での名前を入力します。デフォルトでは、元のコンピュータの名前が選択されます。

この vApp に同じ名前のコンピュータが存在している場合、ソフトウェアは vCloud Director でコンピュータの一意の識別子を調べます。同じ一意の識別子を持つコンピュータは上書きされます。コンピュータが別の一意の識別子を持つ場合、ソフトウェアは新しい仮想コンピュータを作成して、**(1)** などのサフィックスをその名前に付加します。

6. **[追加パラメータの表示]** で、次のいずれかの操作を行えます。
 - **[コンピュータ名]** で、ネットワーク上でコンピュータに与えられている名前を変更するか指定します。
 - **[ネットワーク アダプタ]** で、コンピュータのネットワーク アダプタの設定を変更または指定するか、ネットワーク アダプタを追加または削除します。
 - **[MAC アドレスの保存]** で、コンピュータのネットワーク アダプタ（新たに追加したアダプタを除く）が元のコンピュータのアダプタと同じ MAC アドレスを持つかどうかを指定します。
7. **[オプション] [Power on the virtual machine after recovery] (リカバリ後に仮想コンピュータの電源を投入します)** チェック ボックスをオンにします。
8. **[OK]** をクリックします。

リカバリの進行状況は、右側の [コンピュータの詳細情報] エリアに表示されます。

MyOrg バックアップ ストレージ バックアップ計画 設定 ログ

リカバリの停止 削除 更新

コンピュータ名	vApp 名	ストレージ使用状況	バックアップデータ
VM1	vApp1	70 MB	91.9 MB
VM2	vApp1	862 KB	45.1 MB
VM3	vApp1	242.5 KB	9.6 MB

VM1

リカバリ中... 99 % 完了...

バックアップ

2014/09/09 10:16 午前

2014/09/09 10:02 午前

リカバリが完了した後、成功したか失敗したかに関する情報が、[コンピュータの詳細情報] エリアに表示されます。

5.8 仮想コンピュータのバックアップからのファイルのリカバリ

この手順では、仮想コンピュータ自体をリカバリせずに、仮想コンピュータのバックアップからファイルおよびフォルダをリカバリできます。選択したファイルおよびフォルダは、.zip ファイルとしてダウンロードに使用できます。

仮想コンピュータのファイルをリカバリするには

1. [組織] タブまたは [バックアップ ストレージ] タブを開きます。
2. リカバリするファイルを含む仮想コンピュータを選択し、[ファイルのリカバリ] をクリックします。
3. [リカバリ ポイント] で、ファイルをリカバリする日時を選択します。

サービスは、その時点にコンピュータ上に存在していたボリューム、ファイル、およびフォルダを表示します。ファイルをリカバリできないボリュームは表示されません。

ファイルのリカバリ



XP

リカバリポイント:

2014/09/09 10:59 午前

名前	修正日	サイズ
▼ C:		
▶ Documents and Settings	2014/03/10 7:51 午前	
▼ Program Files	2014/03/10 7:51 午前	
▶ Acronis	2014/03/10 7:51 午前	
▶ Common Files	2014/03/10 7:51 午前	
▶ ComPlus Applications	2011/08/27 2:51 午後	
▼ Internet Explorer	2011/08/27 2:51 午後	
▶ Connection Wizard	2011/08/27 2:51 午後	
▶ SIGNUP	2011/08/27 3:11 午後	
▼ HMMAPI.DLL	2008/04/14 3:00 午後	38 KB
▼ iedw.exe	2008/04/14 3:00 午後	18 KB
▼ IEXPLORE.EXE	2008/04/14 3:00 午後	91 KB
▶ Messenger	2011/08/27 2:51 午後	
▶ microsoft frontpage	2011/08/27 2:53 午後	
▶ Movie Maker	2011/08/27 2:51 午後	
▶ MSN	2011/08/27 2:50 午後	
▶ MSN Gaming Zone	2011/08/27 2:51 午後	
▶ NetMeeting	2011/08/27 2:51 午後	
▶ Online Services	2011/08/27 2:51 午後	

OK

キャンセル

リカバリするファイルおよびフォルダを選択し、**[OK]** をクリックします。

リカバリの完了後、.zip ファイルをダウンロードするリンクが、右側にある [コンピュータの詳細情報] エリアの **[バックアップ ストレージ]** タブに表示されます。

MyOrg バックアップ ストレージ [バックアップ計画](#) [設定](#) [ログ](#)

リカバリ	ファイルのリカバリ	削除	更新
コンピュータ名	vApp 名	ストレージ使用状況	バックアップ データ
profile2	不明	70.1 MB	91.9 MB
▼ VM1	vApp1	70.1 MB	91.9 MB
VM2	vApp1	862 KB	45.1 MB
VM3	vApp1	248.5 KB	9.6 MB
w2k3_x64_thin_50gb - 2-1	thin VMs (50)	70.5 MB	92.5 MB

VM1

通知

✓ ファイルのリカバリが成功しました
2014/09/09 11:14 午前
ダウンロード (L) (S) (M) (R)
新しいタブで開く (T)
新しいウィンドウで開く (W)
シークレットウィンドウで開く (G)
名前を付けてリンク先を保存 (S) ...
リンクアドレスをコピー (C)
要典を検証 (N)

バックアップ

2014/09/09 11:02 午前
2014/09/09 10:57 午前

このリンクは 24 時間有効です。サービスにログインしているときにのみリンクを使用できます。

ファイルは、全体的なフォルダ構造で .zip ファイルにまとめて保存されます。たとえば、**C:¥Documents¥Report.doc** ファイルは **Drive(C)¥Documents** フォルダの .zip ファイルに保存されます。